

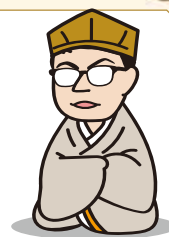
第5回

研修医川柳コンクール

今年で第5回目を迎えた研修医川柳コンクール。僕が卒後臨床研修センターに赴任してから始まったこの企画の発案者として委員長を務めております。これからも毎年言い続けます。(企画が残る限りは)

5年前といえば平昌オリンピックで羽生結弦選手が連覇を成し遂げました。豊洲市場が開場しました。安室奈美恵さんが引退されました(世代を感じます)。さて、今年も川柳コンクールには多数の応募をいただき誠にありがとうございました。時は流れても、研修医ならではの視点で読まれた川柳は、なんだかほっこりしますね。

患者さんのことを思い、カンファレンスで緊張し、親や周囲への感謝が垣間見える川柳です。読者の皆様に当院の研修医が頑張っている様子が伝わりますように。



卒後臨床研修センター 研修医川柳コンクール 委員長 鈴木 翔

最優秀賞

ふとよぎる あの患者さん 元気かな

詠み人 M・K

選評 選考委員 卒後臨床研修センター 鈴木 翔

新米研修医の頃の患者さんは特に印象に残ると思います。新米なりに頑張って向き合ったからこそその一句だと思います。

2位

問診中 気付けばマスター 宮崎弁

詠み人 T・F

選評 選考委員 卒後臨床研修センター 樋口 和宏

県外出身の先生ですね。そのうち、宮崎弁と故郷の言葉が混じった新言語を生み出すと思います。

3位

初任給 両親連れて ミ○チクへ

詠み人 匿名希望

選評 選考委員 卒後臨床研修センター 小田 康晴

親にとって一番嬉しい瞬間の一つです。ぜひとも、初任給でプレゼントをしてあげて下さい。

4位

忘れるな! まず挨拶と 報・連・相!

詠み人 R・S

選評 選考委員 卒後臨床研修センター 木許 恭宏

これぞ研修医に最も大事なことです!これができれば円滑な研修医生活が送れるはずですよ。

5位

いざ病棟 カルテ書くにも 席争い

詠み人 T・F

選評 選考委員 卒後臨床研修センター 谷口 智明

朝と夕の病棟申し送りの前後は特に混み合いますよね。。。

レジナビフェアに参加しました！

令和5年5月14日(日)に福岡、令和5年6月18日(日)に東京、令和5年7月2日(日)に大阪でレジナビフェアが開催されました。All Miyazakiブースも出展し、宮崎大学も参加してきました！福岡会場ではセンター教員の谷口先生と研修医の先生3名、東京会場では研修医の先生4名、大阪会場では研修医の先生2名が参加し、福岡では18名、東京では14名、大阪では13名の学生が本院ブースを訪れてくれました。それぞれの会場で学生からの質問に答えたり、本院プログラムについて丁寧に説明しました。今回宮崎県ブースを訪れた学生さんには、是非とも実際に病院に来ていただいて本院の雰囲気を感じてもらえたら幸いです。



福岡会場



東京会場



大阪会場

レジナビ座談会 ～参加研修医に聞きました～

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、さまざまなイベントが対面で開催されるようになってきました。レジナビフェアもWebから対面へ戻り、上記で報告したとおり本院も数年ぶりに対面での開催に参加しました。今回対面開催に参加した研修医の先生に参加した感想や本音を聞いてみました！



司会・進行(前方写真中央)

宮内俊一先生(卒後臨床研修センター副センター長)

参加研修医(後方写真左から)

河野真菜先生(2年次:レジナビフェア福岡、東京参加)

松山桃子先生(2年次:レジナビフェア東京参加)

古島理紗子先生(2年次:レジナビフェア福岡参加)

西本翔英先生(2年次:レジナビフェア福岡、東京、大阪参加)

アピールで心掛けたことは？話をした学生の印象は？



松山桃子先生

松山先生(以下、松山)：事務の方とか指導医の先生なども参加する中で、研修医が参加するということは、学生に近い立場で説明することに意味があるのかなと思って、できるだけ友達ではないけど先輩後輩みたいな近い関係のような感じで接しました。その方が聞きやすいかなと思って。

宮内先生(以下、宮内)：僕らって大学に入ってからずっと下級生を勧誘しているよね。2年生に上がったなら1年生を部活動に勧誘して、研修医になったら学生を勧誘して、来年(3年目)になったらきっと2年次研修医を勧誘してるよ。だから近い目線で話してあげるっていうのは非常に大事ですね。学生の印象はどうでした？

松山：人それぞれという感じでしたが、レジナビフェア東京の場合は、いろんなところを聞いて回って、レベルの高い質問が多かったような気がしました。行きなれているって感じがありました。

うまく話せた？ああすればよかったと思うことは？

西本先生(以下、西本)：最初はこちらが一方向的に説明したけど、訪問した学生さんは「これが聞きたいのにな」という気持ちを持っていたように感じました。最初にどういったことが聞きたいかをこちらから学生さんに確認してから説明すればよかったかなと思い、2回目(東京)の参加ではそのようにしました。

宮内：次に参加する研修医にアドバイスするとしたら？

西本：やっぱり「まず学生が聞きたいと思うことを聞いてから話をする」といいよ。」ということですね。

宮内：説明者側としては、いろいろと話をしなければと思って一方的にプログラムの説明をしてしまいがちなんで、まずは相手の気持ちになって話を進めるのは非常に大事ですね。



西本翔英先生

印象的な出来事は？

河野先生（以下、河野）：もともと宮崎出身とか、祖父母が宮崎にいますとか何かしら宮崎に関係ある学生さんがくるのが多いなという印象だったんですが、レジナビフェア福岡の時に、全く宮崎に縁もゆかりもない学生さんがブースに来て、「自分は小児科に行きたいと思って、それを実習の時に言ったら、その時の実習の先生たちから、だったら宮崎がいいんじゃないと言われたので聞きにきました」という子がいました。小児科という切り口で来るとは思わなかったの、何を説明したらいいんだろうと少し戸惑いました。

宮内：縁もゆかりもない子がくるのがちらほらあるけど、例えばサーフィンに興味があつて〜とか、でも「特定の診療科を切り口に宮崎に！」というのは私も初めて聞いたかもしれない。宮崎出身、宮崎大学出身だと、宮崎大学医学部附属病院のウリというのが何なのかポツと出ないことがあるかもですね。



河野真菜先生

“レジナビあるある”をもし作るとしたら？

古島先生（以下、古島）：私が感じた“あるある”は、「基本的に学生さんは研修制度のことを何も知らずに参加している。」ですかね。

松山：4年生も多かったし、行けばとりあえずなんとかなるみたいな

古島：必修科目が内科6ヵ月、外科2ヵ月などの基本的なところから知らない学生さんが多くて、どこから説明したほうがいいのか迷いましたね。私も学生時代レジナビのようなイベントに参加しましたが、やっぱり最初は何も知らずに参加して、学年が上がるにつれて理解して参加した感じでしたね。

宮内：とりあえずのぞいてみようの学生が多いかもしれないですね。ある意味レジナビに参加する人、決めきれないから来るっていう人が多くて、むしろ決めている人は参加しないかもしれないですね。

松山：私の“あるある”は、「近隣の人気の他ブースへ参加する学生をよびこみがち」ですね。向かいにかなり有名な病院が出展してて、学生さんがそこにたくさん話を聞きに来るので、ついでにこちらも聞いていかない？みたいな

宮内：「有名どころのおこぼれをもらいがち」ですね（笑）

河野：私は、「出展ブースでお菓子配りがち」ですね。宮崎ブースはマンゴーゼリーなどを配ってて、他のブースも例えば長崎のブースはカステラなどを配ってましたね。

宮内：食べ物を配るっていうのは初めて聞きました。私が数年前に説明者で参加していた時は、エコバックなどの物品が多かった印象ですね。



宮内俊一先生

レジナビに参加してみてもいいかな？

宮内：初めて会う人ばかりなので話すのは大変だけど、やっぱり楽しいですよ？

一同：楽しかったです！

宮内：またレジナビなどの説明会に参加をお願いされたら行きますか？

西本：実は次のレジナビフェア大阪※も手を挙げてます（一同笑い）

宮内：みんな好印象のようでよかったです！ぜひまた参加して宮崎大学医学部附属病院および宮崎県の研修病院のアピールをお願いしますね！



※座談会はレジナビ大阪開催前の6月末に実施しました。

～座談会を終えて～

研修医の方々とレジナビに参加していつも思うこと、それは「この先生、結構しゃべるのね。」「ついこの前まで勧誘される側だったのに、結構グイグイ宮崎大学をアピールしている！」というような、ポジティブな喜びです。

座談会中にもこの話しはしましたが、我々は大学に入学した後の1年生の時以外は、ずーっと、常に後輩達を自分たちのコミュニティに勧誘しています。部活に入ったら2年生以降はずっと新入生の勧誘に躍起になりますし、研修医になったらこのレジナビのように医学生対象に宮崎大学をアピールする、専攻医になったら今度は研修医を対象に自分が所属する医局をアピールする…なにか、死ぬまで誰かを何かに勧誘し続けるんじゃないかという思いに陥るほどです（別にそれ自体は悪いことじゃありません）。

今回の座談会でレジナビを振り返ってみて、いつの間にか研修医の先生方が宮崎大学の看板を（ちょっとだけ）背負って頑張ってくれていたことを再認識しました。とっても嬉しいことです。人にアピールをすると、はじめてその内容の深い部分をみずから知ることができますね。

レジナビ、何度でも若い先生方と参加してみたいです！

卒後臨床研修センター副センター長 宮内俊一

研修医 河野真菜先生が学会発表した 症例報告が論文化・誌上掲載されました!!

河野真菜先生が内科学会九州地方会で発表したものが論文化され、宮崎県医師会医学会誌に掲載されました。

論文タイトル 腎生検が有用であったMPO-ANCA陽性糖尿病患者の1例

著者 河野真菜、落合彰子、古郷博紀 他

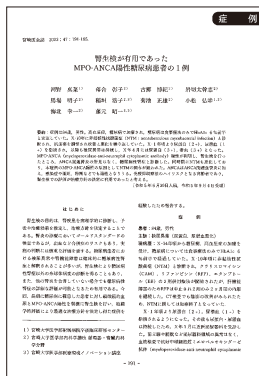
Journal名 宮崎県医師会医学会誌 2023;47:191-195

コメント 河野先生

日本内科学会九州地方会で発表した症例をもとに論文を書かせていただきました。初めての経験で上手くいかないことも多かったですが、落合先生をはじめ、ご指導くださった先生方のおかげでなんとか論文化することができました。私が医師として初めて担当した症例であり、こうして形に残せたことをとても嬉しく思います。今回の経験を日々の診療に活かしていきたいです。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

**ご指導いただいた落合先生にも
コメントをいただきました!**

落合先生：河野先生は症例を担当した時から診療、サマリ、学会発表とひとつずつ真剣に取り組んでいました。「書いてみて」とざっと指導した後に返ってきた原稿は、初めての執筆とは思えないくらいの力作でした。先生のがんばりが形になり素晴らしいです。私も研修医時代に論文(指導：病理 佐藤勇一郎先生)を書いた経験があり、今回研修医の先生に還元でき嬉しく思います。チャレンジしたい方は是非相談してください。一緒に頑張りましょう!



研修医 古島理紗子先生が 学会発表で表彰されました!!

受賞者 2年次研修医 古島 理紗子

学会名 第56回日本胸部外科学会九州地方会

賞名 最優秀賞

学会名 第76回日本胸部外科学会定期学術集会

賞名 優秀演題

演題 食道粘膜下血腫の一例

指導診療科 消化管・内分泌・小児外科
(担当指導医：武野慎祐先生)

受賞コメント

7月に大分で開催された日本胸部外科学会九州地方会JATS Case Presentation Awards 食道部門にて最優秀賞を受賞しました。また、10月に仙台にて開催された日本胸部外科学会定期学術集会にも参加させて頂き、優秀演題に選出させて頂きました。このような貴重な機会を与えて頂き、指導医の武野先生をはじめ、外科学講座の先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。この経験を活かしてこれからも精進していこうと思います。



研修医の声 医科2年次研修医 坂本 竜一

宮崎大学医学部附属病院研修医2年目の坂本と申します。

私は大学病院の研修医プログラムのうち、大学病院の研修医のほとんどが選択しており、研修する診療科や病院を自由に組み合わせることのできる「自主デザイン研修プログラム」に登録し、研修期間の半分以上、協力型病院(市中病院)での研修を選択しました。

1～数カ月おきに大学病院や複数の市中病院を転々とする日々を送ってきて、慣れない環境の連続や入退職関連の手続きの煩雑さに本プログラムを選択したことへの後悔を感じたこともありましたが(笑)

しかし、各病院の指導医・上級医の先生方や研修医、また、他職種のスタッフの皆様のおかげもあり、とても充実した研修期間を過ごせていると感じています。

大学病院では上級医の先生方からの非常に手厚い御指導を受けられ、院内の参考書や文献が豊富なため、十分な自己研鑽を行うことが出来ます。そのため、診療方法や手技の知識的な習得は余裕をもって出来ますが、一方で診療・

手技や診断・治療のアセスメントを実際に行う機会が少ないというデメリットがあります。市中病院ではそういったアウトプットを行う機会が豊富であるため、反復による習熟度の向上、また、実践の中でこそ得られるコツやより臨床的な知識・技能の習得が可能であるといったメリットがあり、業務の忙しさから症例の予習や振り返り、また疾患への理解が不十分なままに研修期間が終わってしまうと感じる場面もありました。

「自主デザイン研修プログラム」では、大学病院で先生方の御指導や自己研鑽を通して知識や手技を習得した上で、市中病院で実際の診療や手技を繰り返すことで知識・技能を習熟させることが出来ています。このように、大学病院と市中病院双方の欠点を補完しあった研修を行えることが、本プログラムの大きな利点であると感じている今日の頃です。

昨年4月から始まった臨床研修ですが、早いもので残る研修期間も4分の1ほどとなり、専門研修の一次募集が目前に迫っています。来年度からの専攻医としてのスタートに向けて、残りの研修期間も充実した日々を送れる様に、今後とも日々精進していこうと思います。



県立延岡病院研修中に地元大瀬川で釣り上げたクロダイ



高千穂町国民健康保険病院研修中に案内して頂いた国見岳から見た高千穂町の景色

研修医マッチング結果

2024年度研修開始予定の「臨床研修マッチング」が行われ、医師は10月26日(木)、歯科医師は10月24日(火)にマッチング結果が発表されました。

医 師

自主デザイン研修プログラム 18名
小児科研修重点プログラム 0名
産婦人科/周産期研修重点プログラム 0名

歯科医師

歯科医師臨床研修プログラムA 3名
歯科医師臨床研修プログラムB 0名
(協力型長期プログラム)

「なんでも掲示板」 原稿募集!

宮崎都市伝説、失敗リカバリー談、研修あるある話など、研修に係わる話ならなんでも原稿募集中です!

連絡先 宮崎大学医学部 医療人育成課 卒後臨床研修係

内線2385/2386

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200

TEL0985-85-1864 FAX0985-85-0693

E-mail:sotugo@med.miyazaki-u.ac.jp

